

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597330020		
法人名	社会福祉法人 施福会		
事業所名	グループホーム みずき		
所在地	山口県熊毛郡田布施町大字宿井416番地4		
自己評価作成日	平成23年 9月27日	評価結果市町受理日	平成24年9月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームみずきは、豊かな自然に囲まれた環境の中にあります。ゆったりと流れる時間の中で、その人らしい毎日を過ごしていただけるよう支援しています。利用者や職員の笑顔に包まれた、そこはまるで我が家のようにです。また、同一敷地内には、特養等、当法人が経営する事業所が併設されており、安全で安心した生活が送れます。

日常生活の中で、自然な形で、家事などを一緒に行い持てる力を存分に発揮していただき、和気あいあいと生き生きと過ごしていただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に囲まれた環境で、利用者一人ひとりがゆったり、のんびりと日常生活が送られるよう、利用者一人ひとりの生活習慣や思いを把握され、食卓の座席の配置やリビングの椅子やソファの配置等住環境にも工夫されています。玄関前には外の空気や景色を楽しみながら、職員との団欒や外来者への声かけが出来る場所づくりがされ、「住みなれた地域で、ゆったり穏やかにのんびり楽しく笑顔で過ごす日々」の理念に基づいた支援をされています。

居室がわからなかった利用者を他の利用者が居室に誘導したり、トイレがわからなく困っている時の利用者同士の支えあいや食材を配達されるお店の人との声かけ、併設施設への訪問や利用者との係わりなど、人と触れ合いながら支え合って生活をされている様子がうかがえます。家族の理解が深められるよう、毎月のホームだよりは写真入りで暮らしの状況やコメントを書いて送付され、ロビーには利用者一人づつの写真をポケット式の壁掛けに入れ、気に入った写真は、面会時に自由に持ち帰ることができるなど、訪れる家族との関係づくりにも配慮されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲示し、職員会議にても皆で話し合い、実践に繋げている。	「住みなれた地位でゆっくり 穏やかに のんびり 楽しく 笑顔で過ごす日々を」という事業所独自の理念をつくり、玄関や事務所に掲示し、管理者と職員は理念を共有して、日々のサービスにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のスーパーを利用したり、日頃から地域との繋がりをもつようになっている。またお祭りに参加したり、校区内小学校運動会、どんど焼きその他行事にも参加している。	どんど祭り等地域の行事や小学校の運動会へ参加し、併設施設の地域向け行事にも参加して、地域の人と交流をしている。地元スーパーでの食材購入や地域の店から食材の配達時には声かけもあり、地域と関わりが深まるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	たぶせ苑まつりや運営推進会議などにより地域の方と触れ合う機会を設けている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価についてのねらいや活用方法を全職員が理解するように努めている。	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解しており、全職員で自己評価を行い、管理者が取りまとめている。自己評価をすることで居住空間を考え、環境整備や家具の配置換え等具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に一度運営推進会議を開催しており、会議メンバーから、率直な意見をいただきサービス向上に繋げている。畑作りのボランティアや地域交流のための情報をいただくなど積極的な関わりがある。	設置規定を定め、連合自治会長、民生児童委員、在宅介護経験者、町地域包括支援センター職員、町職員、利用者、家族代表等で2ヶ月に1回開催している。利用者の状況や事業所の取り組み状況の報告をし、意見交換をしている。ボランティア活動や地域交流の為のアイデアが出るなどサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者とサービスの取り組みについて相談しながら、指導、相談、指示をもらっている。	町担当者と連絡を密に取り、サービスの取り組みや事業所の実情を報告し、協力関係を築くよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠はしていない。個々に応じた対応により利用者の安全に配慮し、抑圧感のない暮らしができるよう支援に努めている。	代表者及びすべての職員は身体拘束について正しく理解しており、拘束や抑制をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者介護の理解をし、ミーティングや日常業務の中で話し合い、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている方がおられるため、ミーティングにて概要を説明している。今後、必要と思われる方には利用者や家族に周知を図っていきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、サービスについて十分説明を行い、ご理解いただいた上で、契約の締結をさせていただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話、介護計画の見直し時、運営推進会議などにおいてご家族の意見を気軽に伝えられる機会をつくり、出された意見については職員間で話し合いながら、日々の運営に活かしている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、家族の意見や要望を面会時や電話等の機会に聞いており、運営推進会議等でも言いやすいような雰囲気づくりを行なっている。意見や提言、苦情は職員間で共有し、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	同一法人内での代表者会議が2ヶ月に1回行われており、管理者や職員の運営に関する意見を提案する機会がある。年2回の個人面談、月1回のミーティングなどでも職員の意見や提案を聞く機会が設けてある。	月1回のミーティングで職員の意見や要望、提案を聞いており、2ヶ月に1回開催する法人の代表者会議で職員の提案や意見を取り上げるなど、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理シートに基づいて個人面談を実施し環境の改善に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングにおいて話し合いをしたり内部研修を行っている。外部研修については今後参加をすすめていく。	月1回のミーティングで話し合いをしたり、内部研修を行っている。認知症の専門研修や資格の取得にも対応している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ加入をしている。勉強会などに参加し交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや不安に耳を傾け、信頼関係づくりに努めている。本人が安心して暮らせるよう事前のアセスメントをしっかりと行う。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人のおかれている状況を理解し、ご家族の体験や思いを理解しながら、見学を含め説明を行い関係づくりをしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族が必要としている要望に対して、介護支援専門員と連携しながら、できる限りの対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることの大切さを職員が理解し、自然な形で日常生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を家族とともに支えていく支援が必要であることを日々の状況報告において伝えていく。誕生日や祭りや外出においてもご家族の参加を呼びかけている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院やスーパーなどに行った際、近所の方や馴染みの人や出会ったり、友人や知人の来訪があったりする。同一敷地内の併設施設での交流にも馴染みの方に出会ったりする。	馴染みの美容院の利用やスーパーでの買い物、友人や知人の来訪や面会、敷地内の併設施設の利用者との交流の機会の確保など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人の過去の暮らしや性格を把握し、利用者同士がお互い助け合えるような状況作りに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、入院されている方への面会など途切れることがないように努めている。退居のご家族へもホームへ気軽に訪れていただけるよう声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、一人一人の話をゆっくり聞き個別記録に記入、把握に努めている。困難な場合は家族や関係者から情報を得て本人にとっての暮らし方を検討している。	日々の生活の中で、一人ひとりの話をゆっくり聞きながら暮らし方や意向の把握に努めており、それらは個別記録に記入し、全職員で理解している。困難な場合は家族や関係者から意見を聞きながら本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人の情報をもとに、入居前に利用されていたサービス事業所、ケアマネに情報提供を受けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や連絡ノート、ケアチェック表、介護日誌、引き継ぎで職員全員が状態を把握できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開催し利用者一人ひとりの状態について話し合いをし、3ヶ月に1回担当者会議をケアマネ、管理者、担当スタッフを中心に意見交換をしている。ご家族からも要望を聞いた上で現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の意見や希望を尊重しながら、主治医の意見も参考にカンファレンスを行い、意見やアイデアを反映させた、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの気づきを、本人の言葉、エピソード等記録し、情報を共有している。特変があった場合は詳しく記録するようにしている。利用者の情報変化や状況に応じ介護計画の見直しに生かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の送迎、美容院への同行、希望に合わせた買い物など個々の要望に合わせた対応をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の郷土館やスーパー、美容院など利用したり、畑作りのボランティアなど地域の方との交流を図っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は本人及び家族の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療が受けられるように支援している。	本人や家族が希望する医療機関が受診できるよう支援している。かかりつけ医に心身の情報が伝えられるよう、家族とも連携を図っている。必要な場合は、職員が同行している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は主に家族が対応しているが、情報を提供し適切な受診が出来るよう支援しており、必要に応じ職員が同伴するなど、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職の配置があり、健康管理に努め、必要な際には相談や指示を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に情報提供を行い、家族との連絡も行っている。入院中のお見舞いに行き安心して帰居できるよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合はその都度、主治医や家族で話し合い、現状でどこまで支援できるかを考え、職員間で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた方針について、入居時に家族に説明している。実際に重度化した場合は本人や家族の意向を尊重しながら、看護師、主治医と相談し、訪問看護の利用も含め事業所で出来ることを話し合い、支援に取り組むように努めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	応急手当の勉強会を行っており、マニュアルを確認している。リスクの高い利用者への事故を未然に防ぐための工夫を個々のカンファレンス等において話し合っている。	マニュアルに基づいて、急変や事故発生時に備え、応急手当の勉強会をしている。ヒヤリハット報告や事故報告をもとに、利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方等を年2回行っている。地域との協力体制は考えている。	消防署の協力で避難訓練や消火訓練を年2回行っている。併設する介護施設や隣接する周辺施設とは合同の防災訓練も行っている。	・地域への協力の働きかけ
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように職員会議等にて具体的に話し合いをしている。	職員会議でプライバシーの確保や誇りを傷つけない言葉かけや対応について、具体的に話し合っており、人格を尊重しプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表せるよう、待つ支援をしている。利用者自身が自己決定する場面が作れるよう心がけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしとは何かを考え、業務のスケジュールの見直しを行いながら、その人に合った一日を過ごしていただけるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みや希望の理美容を利用できるよう支援している。その人にあったおしゃれができるよう個々の支援をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、食事準備、片づけなど利用者と一緒にいき、食事職員も同じ物を一緒に食べている。畑で取れた野菜や季節の素材を使ったメニューを考えたりバイキング形式を取り入れた食事を行っている。	昼食は配食であるが、朝食、夕食、おやつと一緒に献立を考え、畑で収穫した野菜や季節の食材を使って事業所で調理している。バイキング形式を取り入れたり、利用者と一緒に食材を買いに行ったり、食材の配達人との声かけもあり、利用者は職員と一緒に調理や配膳、下膳、台拭き等をして食事を楽しんでいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量はチェック表に毎食記録している。個々の咀嚼や嚥下状態に合わせて、食材の工夫をしている。水分の不足の方にはゼリーやヨーグルトなどを取り入れたりしている。栄養面については同法人栄養士にアドバイスをもらっている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた対応で歯磨きうがい支援を行っている。磨き残しの仕上げの必要な方は個々に職員が対応している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要な方は排泄チェック表にて排泄の確認をし、トイレ誘導を行っている。おむつの方も日中は布パンツを使用ができるようカンファレンス等において協議している。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量やバイタルが一覧できる排泄チェック表にて排便確認をしている。体操や散歩、また牛乳、ヨーグルトなど水分補給にも十分気をつけ自然な排便が促せるようにしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本毎日入浴を実施している。希望があれば朝風呂も行っている。担当職員が衣類準備から関わりゆっくり入浴が楽しめるよう支援している。	毎日入浴をしており、希望があれば朝風呂にも対応できる。担当職員が利用者一人ひとりに衣類準備から入浴後の水分補給までのすべてに関わり、ゆっくりと入浴を楽しむことができるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分な睡眠ができるよう、夜間の照明や室温調整を個人に合わせて対応している。日中にはその方の生活リズムを把握し、個別に休息をとっていただいている。夜間眠れない方には職員が関わり安心して寝ていただけるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーを個別ファイルに整理し、服薬に関する注意事項を全職員で把握している。また、処方変更により、状況変化が見られるときは、詳細な記録を取り速やかに看護職員や主治医に連絡をとっている。薬は手渡し服薬を確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみが持てるよう、個々の生活歴や趣味を考慮し、支援している。	縫物やつくろい物などの針仕事、週刊誌や新聞を読んだり、生花やお茶、竹細工、家事、日用品の補修など一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を發揮しながら、生きがいを持って暮らせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ買い物や気分転換のドライブなど行っている。本人の希望に添えるよう家族とも連携を取りながら支援している。	食材の買物、日々の散歩、ドライブ等戸外に出かけている。寺社の参詣や貝堀り、藤の花見などの行事には家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。玄関前に作られた憩いのスペースでは、職員と共に団欒し、外来者への声かけなど戸外の空気や景色を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とも相談し、希望がある場合は、許容範囲内で所持していただいている。買い物に出かけた場合なども、預かっているお金より少額のお金を渡し支払いをしていただくこともある。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、職員が取り次ぎ、直接電話口に出て、お話をしていただいている。手紙については、ご希望時に職員の支援のもとで、書いて郵送している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は、常に清潔を保ちつよう心がけている。また、季節の草花の観賞など自然に触れ合うことで季節に応じた生活を過ごされている。	玄関や庭、リビングには季節の花があり、戸外の芝生やベンチも共用空間の一部として生活に取り入れている。リビングは明るくゆとりもあり、ソファや椅子の配置替えにより、一人になれる場や、気の合った利用者同士でくつろぐ場があり、思い思いの場所で過ごしている。対面式の厨房には生活感もあり、その他の共用空間についても使い易く整備されている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を廊下やリビング玄関などに置き、思い思いの場所に座っていただいている。戸外には、芝生、ベンチを置きゆっくり過ごせるようしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人から趣味や好みの物を、入居前に聞き、入居時には使い慣れた馴染みタンスやソファ、写真、趣味の物を持ち込んでいただく。お茶道具を持ってこられたり、裁縫道具を持ち込まれておられ縫い物をされたりしておられる。	居室にはベットが備え付けられ、使い慣れた箆笥やテレビ、洋服かけ、椅子、裁縫道具やお茶道具など趣味の物を持ち込み、その人らしく居心地良く過ごせるよう配慮している。室内装飾品やのれん等も持ち込み、思い出の写真やカレンダー等もその人らしく飾っている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フローアはクッション性のある衝撃に強く滑りにくい床材を使用しており、必要な場所には手すりを設置している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム みずき

作成日: 平成 24年 9月 21日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	ケース会議を月1回全員で話し合う機会を持ち考えを共有する必要がある。	ケース会議を月1回全員で行う。	ケース担当者が事前に情報収集をし計画に基づいた課題等を提議する。皆で話し合いをし共有する。次月課題等をまとめ記録する。	1ヵ月
2	36	災害対策について地域(近隣)の方への協力の働きかけについて。	災害対策として地域への協力の働きかけをする。	運営推進会議にて、地元の委員の方を通じ地域の方へ協力を求める。	6ヶ月
3	7	身体拘束マニュアルの作成	身体拘束マニュアルの作成をする。	身体拘束マニュアルの作成をする。	1ヵ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。